

WM SYMPOSIA 2019 (WM2019) 参加報告

山田淳夫*1

2019年3月3日(日)から7日(木)まで、米国アリゾナ州フェニックスコンベンションセンターで開催された Waste Management Symposia 2019 (WM 2019)に参加した。本シンポジウムは45年の歴史を持ち、200万ドル以上の教育支援を行ってきた廃棄物処理処分と廃止措置の分野では世界最大規模の会合である。WM2019では700件以上のプレゼンテーションがあり約30カ国から2200名以上の参加者が集まり、200社以上がブース出展した。

とくに今年度は Featured Country をカナダとし、専用のパビリオンの設置・展示が行われた。また、我が国の福島第一原子力発電所(1F)の廃炉にも大きな関心が寄せられており、今年度も日本パビリオンが併設された。今年度の日本パビリオンの参加企業者は、JAEA、東芝、ATOX、IHI、鹿島建設、大林組の6事業者・企業であり、とくに東芝ブースでは燃料デブリからのサンプリング回収の映像を提供していた。なお、この燃料デブリ取り出しの映像は大型モニターによる専用視聴ブース(席数およそ150名程度)が設けられ、ひととき注目を集めていた。

まず WM2019 Plenary Session では、2020年以降の廃止措置分野の世界的なリーダーになると目される4名が講演した。また、Featured Session におけるパネルディスカッションでは、カナダおよび US DOE Idaho National Laboratory (INL)の使用済み燃料・Decontamination and Decommissioning (D&D)・調達や契約・安全管理・跡地の除染・搬出・輸送・ステークホルダーとのコミュニケーション等に関する最新の計画や技術開発状況の報告がなされた。

これらのセッションを皮切りに行われた142件の Technical Session では、以下の9つの分野に分かれて発表が行われた。

1. Crosscutting policies and programs
2. High level radioactive waste, spent/used nuclear fuel and long-lived alpha/transuranic radioactive waste
3. Low level waste, intermediate level waste, very low level, mixed waste, by product material, tenorm, norm residues and depleted uranium
4. Nuclear power plant waste management and on – site SNF/UNF storage
5. Packaging and transportation
6. Decontamination and Decommissioning
7. Environment remediation
8. Communication, education, and training of technical and management issues and impacts
9. Special topics and multi-track cross cutting technology topics

各セッション7~8名の Co-Chair およびパネリストが日本を含む各国から参加して活発にプレゼンテーションと議論がなされ、各セッションでの議論を通じて、廃止措置を進めるには世界から広く経験と技術を集めることが重要であるとの認識が共有された。

また、日本人の発表に対しては、必ずといって良いほど「この技術は FUKUSHIMA のどこに使われるのか?」という質問がなされることが多いように思われた。このことより、1Fの廃炉に関する関心の高さを再認識させられた。



写真1 シンポジウムの表彰式兼昼食会の様子

なお、Technical Session のポスターおよびプロシーディングについては審査が行われ、口頭発表およびポスター発表について最優秀賞が選ばれ、翌年に表彰式が行われる。2017年度は残念ながら日本人から受賞者は選定されなかった。

さらに、優れた研究成果を発表した学生を対象に奨学金を与える Roy G. Post Student Scholarship の制度が整備されており、2018年度の対象19名はカナダ、アメリカ、イギリスの学生が獲得する結果となり、これも今年度は日本人の対象者は選ばれなかった。

2019年度のWM2020は、2020年3月8日(日)から12日(木)の日程で、本年と同じ会場で開催される予定である。WM2020は、Reducing Long-Term Environmental Liability Through Efficient, Effective Clean-Up(効率的で効果的な浄化による長期的な環境責任の軽減)が Featured theme として設定されている。WM SYMPOSIA は、バックエンド関連技術の定点観測、国内外の人的ネットワーク形成、ビジネス開拓に有効な場であると思慮する。日本の年度末ではあるが、参加を検討されてはいかがだろうか。

Report on the WM SYMPOSIA 2019, by Atsuo YAMADA
(yamada.atsuo@ad-hzm.co.jp)

*1 株式会社 安藤・間 技術研究所 原子力部
Nuclear Power Department, Technology Research Institute, Hazama Ando Corporation
〒305-0822 茨城県つくば市荻間 515-1